

令和 6 年度 第 1 回 羽島市歴史民俗資料館運営協議会（会議要旨）

日 時	令和 6 年 6 月 20 日（木）午後 3 時 00 分～午後 4 時 00 分
場 所	羽島市歴史民俗資料館 2 階 映画資料室
出席者	【運営協議会委員】出席者 7 名 不破洋（会長）、平松俊英（委員）、渡邊修（委員）、松下友幸（委員）、桐井康次（委員）、武山昭見（委員）、柘植卓伸（委員） 【羽島市】出席者 4 名 松井聡（羽島市長）、伊藤佳津子（市民協働部長）、岩田睦巳（生涯学習課長）、大野瑞季（同課主事） 【事務局：羽島市地域振興公社】出席者 1 名 渡邊江身子 【事務局：羽島市歴史民俗資料館】出席者 2 名 奥田千登勢（管理係長）、杉山文彦（管理係）
内 容	I. 市長挨拶 II. 辞令交付 III. 自己紹介 IV. 会長選出 挨拶 V. 議題 1. 令和 5 年度事業報告について 資料に基づき事務局より昨年度の事業報告を説明 〈質疑・応答〉 （会 長） コロナ禍で、利用者は博物館施設への足が遠のいてしまった。年度別入館者数をコロナ禍以前の水準に戻すため、IT を活用するといった新たなアイデアを模索していく必要がある。 （委員 1） 歴史民俗資料館の魅力を強化するといったように、アフターコロナ時代の資料館におけるニーズを捉えることが重要だ。 2. 令和 6 年度事業計画（案）について 資料に基づき事務局より今年度の事業計画を説明 〈質疑・応答〉 （会 長） 夏休み歴史教室について、水屋をテーマとしているが、以前にも水屋をテーマとした企画はあったか。

	(事務局) こうした企画は近年行っていないが、過去に行ったことはある。水屋は次々に消失していきっており、本年度は現存する水屋について調査を行う予定である。 (会 長) 洪水に遭ったことのない現在の子どもたちの世代にとって、水屋とはどのように理解されるのか。 (事務局) 小学校の社会科の「低地の暮らし」の単元において学習している。 (会 長) 羽島市周辺では近年、大きな災害はなく、耐震化も進められており、子どもたちにとって災害への危機感は希薄なものとなっているのではないかと。単に水屋を見せるのではなく、子どもたちが考え、心に残るような取り組みを行う必要がある。 (事務局) 海のない岐阜県では、水害への危機感が希薄であり、水屋にはそうした危機感を醸成する役割がある。 (委員 1) 災害の中でどのように暮らしてきたかという観点や、自然地形的な観点と、防災とを関連付けた取り組みがあればよい。 (委員 2) 夏休み歴史教室に学校として参加するなど、学校との連携があれば、継続して防災意識を向上していけるのではないかと。 (委員 3) 災害や水屋の記憶を持つ地域の方の知識を学校と共有し、校外学習の機会に役立てるとよい。 (会 長) 習俗が失われていく中での、歴史民俗資料館の在り方を模索していく必要がある。 以前は企画展の内容を図録にまとめていたが、図録を廃止し、記録に残せていないことが残念である。 (事務局) 企画展については、資料をすべてデータとして記録している。希望があれば公開している。 (会 長) 過去の企画展のデータに誰もがアクセスできるよう、オープンなものにするべきだ。 (事務局) 過去の企画展について、映像としてはホームページで公開している。ただし、映画資料に関しては、公開するにあたり著作権の問題がある。 (会 長) 映画資料は公開が難しいので、民俗資料を記録として残していけるとよい。 IT を用いれば、費用の面でも効率的に資料を残し、公表できるのではないかと。
--	---

	また、写真撮影の可否はどうなっているか。 (事務局) 民俗資料は問題ないが、映画資料は著作権に抵触するおそれがあるため、資料の写真撮影は禁止している。 (会 長) 資料の公表においては、来館者が写真撮影し、許可なく公表することがないように努めなければならない。 (委員 4) 映画資料は大人を対象としたものが多いが、小学生の利用を促すような工夫が必要であり、博学連携が求められる。 また、小学生が校外学習で資料館を訪れる機会には、社会科の教員でなくとも、資料について説明できることが望ましい。 (委員 5) 学校教員が羽島市の歴史について理解を深めるような勉強の機会を設けることがよいのではないか。 VI. その他 意見交換 閉会
--	---